

今週の聖句

目の見えなかったわたしが、今は見えるということです
ヨハネによる福音書 9章 25節

ねらい

本日の聖書箇所は、伝統的にイースターに向けて洗礼を志願する者を覚えて、この時期に読まれてきた聖書箇所。本来は、9章1節から41節まで読まれてきた。それは、イエス様との出会いから信仰告白まで導かれる様子を、目を開かれた盲人の姿を通して学ぶためであり、説教も9章全体にわたって話しても良いと思われる。

説教作成のヒント

- ・ 盲人がイエスのことを15節「あの方」、17節「預言者」、33節「神のもとから来た」、38節「主よ」と言い表している変化に注意。徐々に信仰に導かれる様。
- ・ 25節「見える」とは、目が開かれたことと共に、イエスを救い主として信じる心の目が開かれたことでもある。「目」(オプサルモス)は感覚認識器官から精神的霊的認識の器官として聖書で多く用いられる。(ヨハネ12章40節、イザヤ6章10節の引用)

豆知識

- ・ 泥をこねて目に塗りつける行為が、治療行為であるとして安息日規定に背いているとファリサイ派は批判した。働いてはならない！！
- ・ 登場するファリサイ派のファリサイには「分離する」の意味がある。
- ・ 安息日における癒しの問題から展開されているが、むしろヨハネ9章全体を貫くテーマは、闇から光に移ることである。

説教

たくさんのユダヤ人が、目が見えなかった人をファリサイ派と言われる偉い人たちのところに連れていきました。働いてはいけないという約束がある安息日に、イエス様が奇跡を起こして、この見えなかった人の目を見えるようにしてくださったのです。なんとイエス様が、泥をこの人の目に塗りつけると見えるようになったのです。その話を聞いて、ファリサイ派の人たちは怒り出しました。目を治したのは、働いてはいけない日でしたし、ファリサイ派の人たちは、素晴らしいお話やたくさんの奇跡を行うイエス様のことを、苦々しく思っていたからです。

そこで、ファリサイ派の人たちは、目が見えるようになった人やその両親に何度も尋ねます。「どうして見えるようになったのか」、「見えるようにしたイエスを誰だと思うのか」。彼らは、イエス様を救い主だと言う者がいたら、追い出してしまおうと思ったのでしょう。見えるようになった人は答えます。「あの方が罪人かどうか、わたしには分かりません。ただ一つ知っているのは、目の見えなかったわたしが、今は見えるということです。」

今日のお話はこの言葉が大切です。おそらく、ここで「見える」と言われていることは、自分の何も見えなかった目が見えるようになったことだけではなくて、自分の目を開けてくれたイエス様は救

い主である、そのことを信じる心の目が開かれたことを言っているのでしょう。確かに今日の聖書箇所をもう少し読み進めると、この人はもう一度、イエス様と出会い、その時に「主よ、信じます」(38節)と言っています。最初は「あの方」(15節)と呼んでいたのに、次は「預言者」(17節)と呼び、最後はイエス様を救い主として「主」と呼ぶのです。

ファリサイ派の人たちは、自分たちは何でも知っていると思いました。しかし、イエス様が救い主であることを信じませんでした。いろいろなことを知っていても、もっとも大切なことを知らなかったのです。それは心の目が閉じたままであることです。でも、目の見えなかった人は、自分の目を開けてもらうと同時に、イエス様のことを救い主と信じる心も与えられたのです。私たちもイエス様を信じる心が与えられるように、お祈りして過ごしましょう。イエス様は必ず皆さんの心の目を開いてくださいます。

分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は「こどもさんびか」(日キ版)より

86番

改訂44番

やってみよう

新学期がスタートします。

みんなで自己紹介をしてお互いのことを改めて知りあいましょう。よく知っている者同士であれば、他己紹介をしてみましょう。お友だちや自分自身の知らなかったことがわかって、きっと新しい発見があるでしょう。

☆おたすけグッズ☆



手づくりマイク があれば 楽しいよ。

ラップの芯に、紙を丸めてガーゼなどで包んだものを、のせて カラーテープでとめる。

そして、ふれあいあそびを通して 子ども同志・スタッフとも仲よくなろう。

♪ あーぶくたった ♪ かごめかごめ

♪ だるまさんがころんだ など

《自己紹介内容例》

- ・名前、学年、学校 ・好きな食べ物 ・将来の夢
- ・自分がなりたいキャラクター ・自分を動物に例えると? ・教会のどんなところが好き?

暗唱聖句

わたしは復活であり、命である

マタイによる福音書 11章25節

ねらい

先週に引き続き、洗礼志願者のための伝統的な朗読箇所であり、本来は11章1節からの内容を含んでいる。ラザロの復活は主イエスの復活とは異なるが、死に打ち克つお方である主イエスの十字架と復活を指す示す「しるし」として説教する。

説教作成のヒント

- ・ヨハネ福音書は、奇跡を「しるし」と呼んでいる（「カナの婚礼」2章1節以下）。つまり、不思議な出来事として見るばかりではなく、その出来事によって何が指し示されているのかを見る必要がある。
- ・ラザロの復活はこの世の命に戻されたこと、それはやがてまた死ぬ命である。しかし、イエスの復活とは罪ある命から永遠の命への復活である。同じものとはできない。
- ・しかし、ヨハネ福音書の「死ぬ」（アポスネースコー）という言葉の多くが、永遠の命を失うことに関連付けて用いられている。（6章50節、8章21節、11章26節など。）ラザロの復活から、永遠の命への復活を思うことはできる。

豆知識

- ・ルカ福音書には、16章30節以下に「金持ちとラザロの譬え話」がある。この譬えの「たとえ死者の中から生き返る者があっても、その言うことを聞き入れはしないであろう」とのアブラハムの言葉にあるように、実際にラザロの復活からイエスを殺す計画が始まった。（イエスが語るたとえの登場人物で名前があるのは、このラザロだけである。ゆえにラザロの復活を意図して編集された可能性がある。）
- ・涙を流したイエス様の姿は、このほかルカ19章のみ。イエス様は痛みや悲しみに深い共感を覚えられる方である。
- ・キルケゴールの言葉「死に至る病」から
「ラザロが死人の中からよみがえらされたゆえに、『この病は死に至らず』と言い得るのではなく、彼キリストがそこにいることのゆえに、『この病は死に至らぬ』のである。」

説教

今日は、ラザロと言う人がイエス様の力によって蘇った話です。ラザロは、マルタ、マリアというお姉さんと暮らす三人兄弟の末の弟でした。またイエス様もこの兄弟を愛して、近くに来た時にはこの兄弟の家に泊まることもありました。ところが、その大好きだったラザロが死んでしまうのです。イエス様が、到着したときには、もう4日もたち、ラザロはお墓の中に入れられていました。お姉さんのマルタは悲しんで言います。「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに。」（21節）。イエス様は言われます。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。」（25節）。マルタは「信じます」と答えるのです。

さて、マルタとマリアの二人の姉妹、そして他の人たちと一緒にラザロが入れられているお墓の前にまで来たイエス様は、涙を流し、そして墓の石を取りのけるように人々に言われます。この時の墓は大きな洞穴のようであり、その前には人が中に入れないように大きな石で蓋がしてあったのです。イエス様の言われるように人々が石を取りのけるとイエス様は、神様に祈ってから言われます。「ラザロ、出てきなさい。」（43節）。すると驚くことに死んだはずのラザロが、よみがえって墓から出てきたのです。そこにいた人たちはみんな驚き、たくさんの人が奇跡を起こしたイエス様を信じるようになりました。でも、

この出来事を快く思わない人たちもいました。ファリサイ派や祭司長たちです。彼らはイエス様を殺してしまおうとの思いをますます強くするのです。

皆さんの中にも、親しい人が死んでしまう辛い体験をした人がいるかもしれません。今回、東日本に襲った大地震は、あっという間に多くの人の命を奪ってしまいました。その様子を見た時に思うのは、死ぬことはとても悲しいことで恐ろしいことだということです。私たちはマルタやマリアのように「もう終わりだな。」とってしまいます。でも、イエス様はそのような私たちの悲しみをご存じであり、一緒に涙を流してくださいます。そして今日の聖書で愛するラザロをよみがえらせたように、イエス様は死ぬことより生きることを望まれるのです。それは、「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。」(25節)と言われた言葉の通りです。確かにイエス様は、この出来事から数日して十字架で死にますが、三日後に復活されます。私たちはこのイエス様を信じる時に、永遠の命をいただくのです。この世で死ぬことは決して終わりではない、私たちには新しい命が約束されているのです。

死に勝利するイエス様がいつも皆さんと共にいられます。どんなに「もう終わりだな。」と思うようなことがあっても、イエス様が共にいるならば終わりはありません。イエス様を信じる心をもって、どんな困難にも互いに励まし合い、祈りあって強く生きていきましょう。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

114番

改訂119番

やってみよう

みことばカードをつくりましょう。



色画用紙をギザギザハサミで切るとかわいいよ。

(聖句とイラストや折り紙で折ったものを貼る。)

※ イースター礼拝への招待状にしてもよいでしょう。小さめにするとしおりにも...

絵本の読み聞かせをする

『わすれられないおくりもの』(スーザン・バーレイさく・え 小川仁央やく 評論社)
みんなに慕われていたアナグマが死んでみんなは悲しみでいっぱいでした。途方に暮れる中、アナグマとの思い出を語りだしました...友だちをつなぐ心や生きていく知恵や工夫を伝えあっていくことの大切さをおくりものとして残していました。アナグマが死んでもみんなの心の中に生きている...心に深くしみる感動の絵本です。

身近な人の死、イエスさまのことは、死んでも生きること....など
年齢に応じて感じたこと、思っていることを話し合ってみましょう。

暗唱聖句

主の名によって来られる方に、祝福があるように

マタイによる福音書 21章9節

ねらい

今回は枝の主日としての日課を取り上げるが、その場合は受難週のどこかの礼拝で、子供たちにイエス様のご受難について話す必要があると思われる。ここでは、ロバの子に乗って入場するイエス様の様子から、メシアとしての王の姿を考えてみる。

説教作成のヒント

- ・イエスを迎える様子からエルサレムの人々も王としてのイエスを歓迎したのであり、またイエス自身も旧約の引用にあるように王としてのエルサレム入城を意識していたと思われる。
- ・戦いに赴く力強い馬と、ただ従順に荷を負うロバを比べて、そこに本当の王としてのイエスの姿を見出すことができる。
- ・安野光雅「大きな物の好きな王様」のあとがきから抜粋
「...目もくらむような大きな物を使う王様の姿を描きながら、最後に問うたのは、どんな大きな物を作れる王様がいたとしても、命あるチューリップひとつ作れるかということでした。...どんなに小さく見えるものであっても、命は人間によって作ることができないのです。」

豆知識

- ・かつてはイエスを迎え入れる群衆は棕櫚の葉を敷いたとされることにより、棕櫚主日とも呼ばれたが、現在は棕櫚の葉とは限定されてはならず、私たちの教会でも枝の主日と呼ばれている。
- ・5節の引用は、ゼカリヤ9章9節からのもの。
- ・「ホサナ」は「どうぞ救ってください。」の意味だが、意味そのものよりも歓呼の叫びとして用いられていた。

説教

津和野出身の絵本作家 安野光雅さんの本に「大きな物の好きな王様」と言う絵本があります。次のようなお話です。

王様がいました。大きな物がなんでも大好きな王様です。寝るベッドは高い梯子を掛けて登ります。歯ブラシは自分よりも大きいくらいです。王様の物は、なんでもかんでも大きいのです。冷蔵庫よりも大きなチョコレートを作り、その端をペロツと舐めて満足します。ある時この王様は、植木鉢を作らせました。梯子を掛けて登ると、運動場ほど大きさがあります。そのど真ん中に王様は、チューリップの球根をひとつ植えます。さあ、植木鉢がこんなに大きいことから、どれほど大きなチューリップが咲くでしょうか？王様は楽しみに待ちます。ところが、この絵本の最後の場面はこうです。途方もなく大きな植木鉢をよいしょと登って、王様が見たものは、大きな植木鉢の真ん中にポツンと咲いている小さなチューリップです。とってもかわいいチューリップです。

今日の聖書にも王様が出てきました。それはイエス様です。聖書に次のようにありました。5節「シオンの娘に告げよ。『見よ、お前の王がお前のところにおいてになる、/ 柔らかな方で、ろばに乗り、/ 荷を負うろばの子、子ろばに乗って。』 イエス様は十字架にお架かりになるためにエルサレムに来ますが、その時、イエス様は王様としてエルサレムの人たちの前に現れるのです。エルサレムの人たちも、自分の服や木の枝を道に敷いて「ホサナ」と大きな声をあげました。これは「私たちに救ってください」という意味で自分たちの王様を迎える時の様子であったのです。

でもイエス様は、みんなが知っているような王様とは違いました。聖書にあったようにイエス様は口バの子に乗って来たのです。それは、馬に乗って敵をやっつけてしまう力強い王様ではなく、ただ荷物を背中に乗せて歩く口バのようにみんなの罪を背中に乗せて、十字架まで困難な道を歩まれる王様として来られたことを教えてください。

どんなに強い力を持つ王様も、どれほど大きな物が好きな王様も、命を作り出すことはできません。でも、イエス様は、たとえ罪ある小さな私たちであっても、一人ひとりのことが大好きです。そして、イエス様は私たちに新しい命を与えてくださるのです。

この一週間は、受難週と言って十字架にかかるイエス様の苦しみを覚える日です。イエス様は、十字架にお架かりになり私たちの罪を赦して下さいました。そして復活を通し、私たちに新しい命を与えられるのです。皆さんの心にもイエス様がやって来ます。荷を負う口バに乗ったイエス様こそ、もっとも小さい私たちを愛して、新しい命を与えてくださる本当の王様ですから、私たちはイエス様を喜び迎えましょう。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

70番

改訂82番

やってみよう

・イエスさまがろばに乗ってエルサレムに入城されました。大勢の人々は喜んで自分の服や木の枝を道に敷いて迎えました。このことを覚えて、服のかわりにハギレなどを敷いて道にしたり、手に持って「ダビデのこ、ホサナ」(こどもさんびか32、改訂版82)を歌って自由に振り付けをして踊りましょう。

やってみよう

消灯礼拝(改訂版こどもさんびかガイド P28~31 参照)

四旬節(レント)の期間は日曜日を除く40日間のこと。この期間は世の光であるイエスさまが苦しみを受けられさらに死なれたことを静かに思い起こし、イエスさまの生涯や十字架の死の意味を考えたり、イエスさまに従うとはどういうことかを考えてすごします。その間の6回の礼拝は6本のろうそくを立てて、クリスマスの時とは逆に、ろうそくの灯を1本ずつ消灯して礼拝します(受苦日や聖金曜日に礼拝する場合は7本のろうそくを用意します)。

毎週できなければ、イースターの前日の土曜日にイースターエッグづくりとあわせて集まり、6週分することもできる。

イエスさまが、十字架への道を歩まれたことを灯を消していくごとに心に刻まれ、イエスさまが私たちを愛しておられることを感じる礼拝となるでしょう。

暗唱聖句

婦人よ、なぜ泣いているのか。誰を捜しているのか。

ヨハネによる福音書 20章 15節

ねらい

教会は主の復活を信じ、証しする者の群れであり、復活祭（イースター）は教会の中でも最も大きな祝日である。最初に復活を目撃したマグダラのマリアの姿を追いつつ、死の絶望から命への喜びへと導く主の復活を話したい。

説教作成のヒント

- ・マリアの言葉にイエスは「どこに置かれているのか」が何度も繰り返されている。これは、イエスとは誰かを問うているものであり、その答えは復活の命を持つイエスとの出会いに明らかにされている。
- ・天使やイエスが「婦人よ」と呼びかけられる言葉では、イエスの復活に気づかなかったマリアが、「マリア」(16節)との呼び掛けに、初めて声の主が復活のイエスであることに気付いた。この「私」に呼びかける主の声を聞きとる時に、「私」は信仰へと導かれる。

豆知識

- ・主の愛しておられた弟子とは、ヨハネとされている。
- ・週の初めの日は、今でいうと金曜日の夕方から土曜日の夕方までが安息日であるから、日曜日が週の初めの日である。キリスト教会の日曜日の礼拝は、主の復活を記念しての礼拝であるであり、日本では主日と呼ばれるのもそのためである。
- ・マグダラのマリアとは、ルカ8章2節では、悪霊を追い出された女性として紹介される。

説教

イースターおめでとう！

今日は、教会の中でいちばん大きなお祝いの日です。イースターはみんなが良く知っているクリスマスよりも大きなお祝いです。何故かと言うと、イースターは、復活祭とも呼ばれ、十字架にかかって死んだイエス様がよみがえられたことを記念する日だからです。教会は、イエス様の復活を信じることを何よりも大切にしてきたのです。だから今日は、聖書からイエス様が復活した、その時のお話をします。

さて、今でいう日曜日の朝早く、マグダラのマリアさんはイエス様が入れられているお墓に出掛けました。もうみんなも知っているように、イエス様は十字架にかかって死んだのです。それはとても悲しい出来事でした。でもマリアさんはイエス様のことが大好きでしたから、イエス様を忘れられずにお墓に出掛けるのです。ところがお墓の前に来るとびっくりしました。なんと、お墓に蓋をしていた大きな石が取りのけてあったのです。マリアさんは急いで、ペトロさんとヨハネさんに告げに行きました。この二人のお弟子さんたちも驚き、お墓の中まで覗いて見ましたが、確かに中に納められたイエス様の姿はありません。死んだはずのイエス様は一体どこに行ってしまったのでしょうか？やがてお弟子さんたちは不思議に思いながら先に帰ってしまい、マリアさんはたった一人でお墓を見て泣いていたのです。

その時です。お墓の中に白い服を着た天使がいて、マリアに言うのです。「婦人よ、なぜ泣いているのか」。マリアさんは答えます。「わたしの主が取り去られました。どこに置かれているのか、わたしには分かりません。」

誰かがいるように感じ、マリアさんは後ろを振り向きました。今度はその人が言います。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」マリアさんは答えます。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」

マリアさんは、本当に心を痛めていたのです。大好きなイエス様が死んでしまっただけではなく、お墓の中にいるはずのイエス様の姿もなくなってしまったのです。イエス様はどこに行ってしまったのか、そのことばかり気になっ

て仕方がないのです。

その時、もう一度、マリアの後ろにいた人が声をかけるのです。「マリア」。マリアさんは、この声に驚きました。それは、十字架にかかるまでいつも一緒にいてくださったイエス様の声だったからです。今まで何度も何度も呼ばれてきた自分の名前を聞いた時に、マリアは今、自分のそばにいるお方は復活したイエス様だと分かったのです。マリアさんは本当に心から喜びました。もういなくなってしまうと思った大好きなイエス様が、知らない間に自分のそばにいて、名前を呼んでくださったのです。マリアさんにとって、これほど嬉しいことはありませんでした。

これが、聖書に書いてあるイエス様の復活のお話です。そして聖書は、イエス様が復活されたのは、私たちみんなが神様に救われて、永遠の命を生きることができるためであると教えています。

知らない間にマリアさんのそばにおられ声を掛けられたように、復活されたイエス様は、ここに集まっているみんなのそばにおられます。そして一人ひとりの名前を呼んで、ご自分を信じるように招いておられます。私たちも復活されたイエス様を信じましょう。その時にマリアさんの喜びが、私たちにとっても同じ大きな喜びとなるのです。

イースターおめでとう。これからも復活したイエス様が皆さんと共にあることを心からお祈りします。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

41番

改訂86番

やってみよう



紙を带状に切り
とてを付ける
ホッチキスでとめる。

* 印はカラー染めや

おえかきをするとかわいい。

・たまごさがし

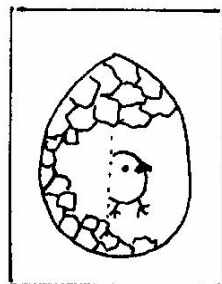
オリエンテーリングのようにゲームにして少人数に分けて出発する。何力所かカードや人を置いて問題を解く。

例えば...・イエスさまのお墓に来たのは？

・礼拝堂の椅子の下を探してごらん など

エルサレム入城からよみがえられたイエスさままでのできごとを問題にしてみるのもよいでしょう。
*たまごを「イエスさまカード」に変えてイエスさま探しにしてもおもしろい。見つかったらたまごをもらう。

・たまごづくり



画用紙にたまごを描き

折り紙や和紙をちぎって貼る。

あらかじめ切り込みを入れておくと

ひよこの絵を出し入れして遊べる。